

千曲市地域防災拠点・道の駅（地域振興施設）整備に関する サウンディング型市場調査の実施結果

令和6年3月
長野県千曲市

1 調査名称

千曲市地域防災拠点・道の駅（地域振興施設）整備に関するサウンディング型市場調査

2 サウンディング型市場調査の目的

本市で新たに整備する「千曲市地域防災拠点・道の駅（地域振興施設）」については、交通事故や災害時などの交通情報発信や車両待避所、地域住民の防災避難場所等の防災力の強化を図るとともに、隣接する佐野川温泉、八幡温泉、戸倉上山田温泉、あるいは日本遺産に認定された月の都千曲（姨捨の棚田がつくる摩訶不思議な月景色「田毎の月」）などと連携した観光振興を検討していく必要があります。

また、地域の気候風土が育む、高品質で多種多様な農産物を直売による農業者への支援や市内初のワイナリー（イルフェボー）を含む千曲川ワインバレーの一環としてワイン文化の普及に向けた情報発信をしていく必要があります。

令和2年度から道の駅は第3ステージに入り、各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速させ、更に、「道の駅」同士や民間事業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献するとされています。

そこで、多様なノウハウ・手法を持つ民間事業者が有する柔軟なアイデアを模索するために、新設する「地域防災拠点」・「道の駅（地域振興施設）」についてサウンディング調査を実施します。

3 個別対話の実施概要

(1) サウンディング項目：

- ① 防災、情報発信及び地域振興の場として安全で賑わいの場となるアイデア提案
- ② 運営をしていくためのアイデア提案

(2) 説明会：千曲市役所3階302会議室

(3) サウンディング：千曲市役所3階304会議室

(4) 対象者：施設の事業主体となる意向を有する法人その他の団体又はそのグループ

(5) 実施経過実施日	実施内容等
令和5年8月8日（火）	実施要領の公表
令和5年8月8日（火） ～令和5年9月15日（金）	説明会の参加申込
令和5年9月22日（金）	説明会（参加事業者7社）
令和5年9月22日（金） ～令和5年12月22日（金）	サウンディング参加申込
令和6年1月11日（木）	対面・WEBにて実施（参加事業者2社、1グループ）
令和6年3月13日（木）以降	実施結果概要の公表

4 サウンディングの参加者

(1) 説明会参加者

設計事業者	1社
道の駅等の運営事業者	1社
企画設計コンサルタント事業者	2社
道の駅等の企画事業者	1社
総合建設業者	1社
農産物生産者	1社
合計	7社

(2) サウンディング参加者

総合建設業者	1社
企画設計コンサルタント事業者	1グループ
道の駅等の企画事業者	1社
合計	3社

(3) 説明会参加者がサウンディングに参加しなかった理由

- ・「PFI *」方式を採用された場合、敷地面積が2.5万㎡以上の規模や、開業時に「道の駅」として整備される見込みが無いと、運営事業者としての参画は難しいと考えているが、今後も引き続き対話は継続したい。
- ・説明会で十分理解できたので、もう少し構想等が進んだ段階で参画したい。

※PFIとは、公共事業を実施するための手法の一つです。

民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法です。あくまで地方公共団体が発注者となり、公共事業として行うものであり、JRやNTTのような民営化とは異なります。

(内閣府 民間資金等活用事業推進室ホームページより引用)

5 サウンディング結果の概要

項目	細目	概要
(1) 安全賑わいの場のアイデア	①施設コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・「寄る」から「過ごす」、目的地となる拠点（遊具等） ・千曲市の自然と文化を活かし、食や体験を通じて魅力発信や交流を促す拠点 ・地域コミュニティ機能を持たせ、様々な住民参加により収益性と持続性を兼ね備えた住民と旅人のハブステーション
	②利用者誘客プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊性のある新交通機関（デマンドバス、ライドシェア等）の提供 ・地元の農産物や特産品の販売、地域の伝統文化や芸能の体験プログラム、自然や歴史に関する情報の発信 ・観光客、学生、住民の様々な利用者へ対応する体験・支援・コミュニティなどの来店動機につながるプログラムの提供など
	③農業関係団体や観光施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の農業関連団体との連携による農産物や加工品の販売、観光施設との連携による観光情報の発信 ・道の駅を起点としてヒト・モノ・コトを動かし集客・収益に繋げていく為、宿泊施設、周辺史跡、生産者、学校、鉄道駅やSAなど交通結節点そして千曲市と連携する。
	④自由提案・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・景観や近隣施設への配慮を含めた候補地の提案 ・災害拠点として、備蓄倉庫や避難スペース等の機能の充実 ・能登半島地震を踏まえ駐車台数、トイレ、断水等を検討する。 ・備蓄品は賞味期限を考え販売・配付等による更新、また繰り返し避難訓練を行うなどの必要がある。 ・企画設計段階からと運営企画との連携は必須と考える。
(2) 運営していくためのアイデア	①運営の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・「共生」「交流」「協働」のまちづくりを目指す商用スペースの多店舗型モールの提案 ・ソフト&ハードの両面で人が集まる地球に優しい次世代型施設（エネルギー、ゴミ、CO2などの課題解決）を目指す。 ・新しいモビリティハブとしての機能
	②地域貢献の考え方・提案等	<ul style="list-style-type: none"> ・老舗の出店や賑わい創出の中心的役割を担う出店構成の提案 ・地元農業の振興、地域の観光振興、地域コミュニティの活性化 ・地元の農業関連団体との連携が必要である。 ・収益を得るための持続可能な仕組みづくり ・地域商品ブランド化と合わせて千曲市全体の価値向上を目指す考え方
	③行政に求める支援・配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備費や運営費の補助、人材育成のための支援、行政による広報活動への協力 ・交通機能の拡充と整備 ・地域連携に向けた支援
	④自由提案・意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色や利用者のニーズの把握 ・持続可能な運営体制の確立 ・継続的な改善 ・行政の柔軟な対応等

凡例 青：A社

緑：B社

赤：C社

紫：三社共通の提案・意見等

6 対話の結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングにより、千曲市の道の駅を整備した場合の採算性や集客のアイデア、管理運営の手法、独立採算の可能性など様々な御意見や御提案をいただきました。今後サウンディング結果を踏まえて、基本構想等の検討を進めます。

一方、現時点では、施設整備後の管理運営に関する者のサウンディングへの関心が少ないため、公民共創による「千曲市地域防災拠点・道の駅（地域振興施設）」の整備を目指し、事業スキームを決定する際に、再度サウンディング型市場調査を実施したい。

7 担当

担当 千曲市企画政策部地域開発推進室

所在 千曲市杭瀬二丁目1番地

電話 026-273-1111(内線4123)

E-Mail kaisui@city.chikuma.lg.jp